

The Reminiscence of Exellia NG+1

終わりへと落ちる

作成レギュレーション

基本概要（新規／継続）

- ・ 経験点：103500／145000 点
- ・ 資金：167000／191000G
- ・ 名誉点：1500／1800 点
- ・ 成長回数：212 回
- ・ レベル制限：11～12
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 12 まで

各種制限

- ・ ヴァグランツ、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0／2.5 標準流派入門禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上のとき、60%以上の割り振りの禁止

動画用メモ

メモ群

私室の書簡：ソルビアの最後通牒

龍刻連邦の新たな元首へ。私は中ソルビア第三帝国の皇帝、ヴァンサン・クロード・モルレンデだ。単刀直入に要件を言おう。《連合国》を抜けて我らの軍門に降り、ヴァルマーレを含む《連合国》を殲滅してくれ。我々は、《宙準星の巫女》の力を買っている。

それが敵となり、我々にその牙を向けることは、あってはならないと考えている。

この通告を受諾しない場合、我々《枢軸国》は《連合国》に、最大戦力を以て宣戦布告を行い、君が守る民草ごと滅ぼしてみせると宣言しよう。

導入

戦乱の前の休息

君達は、《暗魂の暁》のサロンでくつろいでいた。

(※GMメモ：RP待機)

確かに、神城まどかの一件から、考えなければならないことが多くなっていた。だが、それ以上に休息が必要だった。

エクセリアは…自分の部屋で書簡の整理をしているらしい、ということだけ分かっていた。君達は、戦いの前の旅支度を済ませたほうがいいだろう。

一方、エクセリアの私室――

エクセリアは、書簡に記された内容を精査していた。

エクセリア

「…マトーン連邦に動きあり、か。参ったもんだ…。全体主義という思想は、世界に対しては毒にしかない…。

戒厳令を敷く必要がありそうだ。この情報は議会に持ち帰り、防衛網の構築の是非を問おう…」

そう言って、エクセリアはその書簡に「議会での論議の必要性あり」と記しつつ、署名して書簡をベルリオーズに渡す。

ベルリオーズ

「議会に渡すのか？」

エクセリア

「ああ。これは独断で決めることはできない」

それを聞いたベルリオーズは、巡航形態に移行して、フレイディアへと飛翔する。

エクセリア

「さて、次の書簡は…」

(※GMメモ：「メモ群-私室の書簡：ソルビアの最後通牒」を開示)

その書簡を見て、エクセリアは顔をしかめる。確かに、新生した龍刻連邦の元首ではあるのだが…連合国を抜けようにも、それは議会に上げて民意を問わなければならない。

そして、《中ソルビア第三帝国》という国家も、エクセリアは聞き覚えがあった。

30 年前にあったという、《第一次ケルディオ大陸戦争》という戦争で敗戦国となり、多大な賠償金を支払う義務を負わされてしまった、《中ソルビア帝国》という国家…。

その後の政体変更で、一度《中ソルビア共和国》と名を改めたところが、5 年前の選挙で民意を集め、ヴァンサン・クロード・モルレンデという、現皇帝が党首の「サポナリア党」が第 1 党になり、更に政体変更をした国家という風に覚えている。

もちろん、こんなものを受諾するつもりはない。

エクセリア

「議会を通すまでもない…。こんなものは受諾しないに限る。

もし仮に攻めてくるなら…。私が、この炎で焼き尽くすまでだ」

決意を胸に、エクセリアはひとつの終わりへと向かうべく、自らを取り巻く運命の歯車を加速させていく…。

終わりへと向かう物語

———同刻、某所———

1 冊の分厚いノートを持ち、その中に記された内容を見て、ホクトクラフトは薄気味悪い笑みを浮かべていた。

ホクトクラフト

「間もなく、お前は死ぬ。抗うことのできぬ因果を、抱えてきた負債故に、お前はここで終わるんだよ、エクセリア。それが、俺が記した破滅であり…。同時にまどかの勝ちへと繋がる標だ。お前はその周回によって積み重ねてきた負債を…。ここで支払うことになるんだ」

そう言って、彼はそのノートに文章を記す。

「エクセリア・アウェア・エレミアス 心臓麻痺により死亡」と。

ホクトクラフト

「物語を書き記す存在が、この世からいなくなれば…。まどかの宿願は叶い、このラクシアは今度こそ、崩壊する…。後に生み出される並行世界に、その遺物を残すことなく…

俺はただ、世界に終焉を齎し続けよう。生ある全てが、生を否定するその日まで」

進むべき路

…しばらくして、エクセリアの私室の扉が、唐突に開かれる。

エメリーヌ

「エクセリア！…未知の魔動機が！」

そして、エクセリアごと、君達はサロンに集められることになる。

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌ

「…未知の魔動機が、エフェメラル参道に現れたというの。これまでの魔動機とは反応が違いうえに、そこに生きる民草に、その火力で死をもたらしているの。

そうする目的は不明。でも、生き残った現地民は、その魔動機から交易共通語で聞いたそうよ。『生命の存在は、物語を延々と書き続ける異常者である』、だからこそ『もうこれ以上、物語を書かれないようにするために滅ぼす』と」

エクセリア

「なんて身勝手な…。所属は？」

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌが首を振ったことから、「そういうこと」なのだと理解するエクセリア。

それについて、エクセリアが言葉を紡ぐことはなかった。謂わば、「言葉にするのも憚られるほど悍ましい」ということなのだろう。

エクセリア

「…これから待つのは、人々の憎悪が造りだした破滅機構。

どのような命であれ、この世界に生きる以上、その物語はそれぞれに生み出される…。

止めに行こう。そんなイカした機構を…！」

コンテンツ解放：破滅阻止 エフェメラル参道

滅尽の意志 ～破滅阻止 エフェメラル参道～

(※GMメモ：

ボス間（雑魚戦）BGM：

1 ボス（ADF-11F）BGM：Hush（エスコン 7）

2 ボス（EXUSIA）BGM：Stain

3 ボス（Lady in Vortex）BGM：Device）

君達は、再度エフェメラル参道へと向かった。そこで、多くの兵器が荒れ狂っていた。
魔動機のうち、喋ることができるものは、皆揃って同じことを話していた。

魔動機（魔動機文明語）

「生命…排除…伝承…排斥…」

君達がそれを認識すると、魔動機もまた君達を認識する。そして、君達に向けて襲いかかってくるだろう。

敵：エフェメラル・マテリアルディーラー×4、エフェメラル・ワイバーン×1

君達がそれを退けると、人型の兵器が更に現れた。

魔動天使であることだけは確実だが、なにかに洗脳されているのか、様子がおかしい。
戦闘不能にして、後でリリアーナに解いてもらおうとしよう。

敵：エフェメラル・エンジェル

君達は魔動天使を戦闘不能にして、先へ進む。

そこでは、八翼の魔動天使が片膝をついていた。

アデライテ

「来てくれたのか…！聞いてくれ、アレは人が生み出してはならなかった兵器だ…！魔動天使よりもタチが悪い…！アレを完膚なきまでに破壊しなければ…！」

敵：ADF-11F×2

君達は、ADF-11F を撃破した。翼を脱ぎ捨てて逃げ果せようとしたそれらを、体力が戻ったアデライテが 2 体同時に一刀両断する。

アデライテ

「やはり、迷っているには新たな使命を果たせないか…。

私は、空を舞う魔動機を落とす！君達は北へ…！」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、アデライテは飛び去る。そして君が進むと、目の前に複数の魔動機や、操られた幻獣が現れる。それらは君達に敵意を向け、轢き殺そうと、あるいは焼き殺そうとしてくるだろう。

敵：エフェメラル・マテリアルディーラー×2、エフェメラル・エルトリアス×2、エフェメラル・ドラゴネット×1

3ラウンド目に、更にエフェメラル・ドラゴネット×2、エフェメラル・アルシュベルド

君達がそれらを倒し、北へ向かえる分岐点のひとつに辿り着いた君達は、そこにいた魔動機を倒すことになる。

EXUSIA

『貴様らがここに辿り着いたか…。ならば、貴様らの可能性を検証してやろう』

敵：EXUSIA

君達はそれをも討ち倒した。

EXUSIA

『やるもんじゃないねえ、ガラじゃないことは…。ま、倒せるでしょ…、アレ』

そう彼が話していると、空にまたしても異形の魔動機が現れる。

敵：Lady in Vortex

君達は、この魔動機を倒した。その場の天に、転移によってまどかが現れる。

まどか

「…財団が放った兵器でも、ヴァルマーレから盗ってきた最新鋭兵器でもダメか。

お前達に纏わり付く絆とやらは…、どうやら相当根深いものであるらしい…。だが、お前達はそれを打倒した。これを以て、私の敵と見做す。

律の反逆者…その号を恐れぬと言うのなら、我が領域に至るといい。

そこでお前達を滅ぼし…、エクセリアを、文字通り肉の器としてやろう」

そう言って、まどかは消える。それと同時に、空は気味の悪い暗黒に染まり…、その暗黒から覗く太陽は、漆黒の大穴となっていた。

(※GMメモ：RP待機)

いずれにしても、ここにいることは危険だった。一度撤退するのが吉だろう。

漆黒の空

君達が戻ると、エメリーヌが深刻そうな表情を浮かべていた。

エメリーヌ

「…各地でアカシアが出没している…。やはり、あの漆黒の大穴は、各地からエーテルと祝福を奪っているのかしら…？」

(※GMメモ：RP待機(長め))

エメリーヌ

「…そうね。漆黒の大穴の先には…、神城まどかとやらが待っているに違いないわ。けれど…、まずは休んで。まだ焦るほどではないから…ね？」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、君達の前から、エメリーヌが去る。

アデライテ

「…そういえば、なのだが。主君から話を聞いていたのだが…、この天候になったら、1週間しか安心できる暇はないという…。主君はそれに備え、力を蓄えているようだが…、さて、どうなるのだから」

そう言って、アデライテは飛び去る。倉庫番という基本的な役割を果たしに行ったのだろう。

報酬

経験点

- ・ 基本：5000 点
- ・ 破滅阻止 エフェメラル参道：10000 点

資金

- ・ 基本：10000G
- ・ 破滅阻止 エフェメラル参道：15000G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

8 回